



向陵広場

発行号 第176号

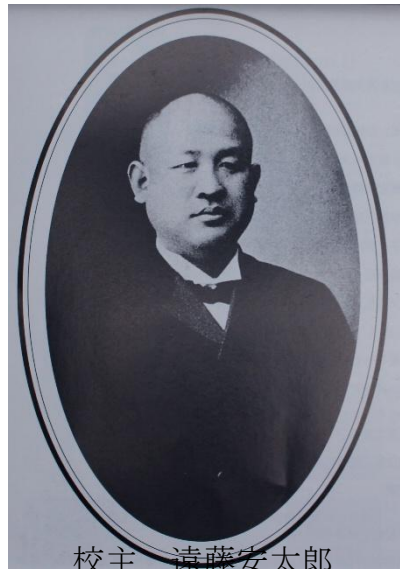
発行日 令和7年7月8日(火)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

明治時代に創立された「私立豊橋商業学校」の経緯について

現在の豊商が向山の地に落ち着くまでの創立当時の歴史を紐解いてみます。



校主 遠藤安太郎

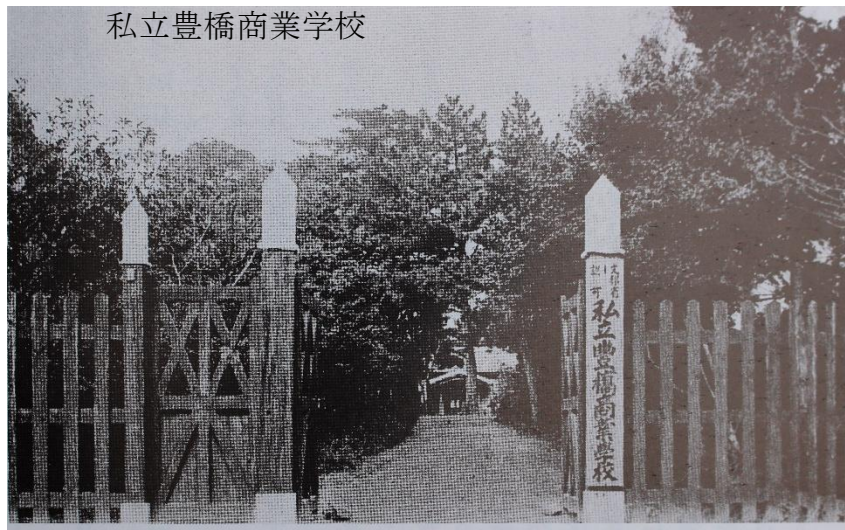
遠藤安太郎氏は明治元年10月21日に渥美郡西豊田村（現在の小向町）に桃作の子として生まれ、叔父晏平の養子となる。父が明治22年58歳にて没すると父の後を継ぎ豊橋郵便局長になり、28歳にて東三地区の局長協議会長になる。

若い頃から経済界の役職に就き、35歳で豊橋商業会議所会頭に抜擢されました。遠藤氏は常に商業教育に強い関心を持っており、豊橋町議会に「豊橋町立商業学校設立に関する建議書」を提出しましたが既に現在高等女学校建設の申請中のために二校は無理となり豊橋町議会の賛同を得ることは出来ませんでした。

そのため、明治39年4月に遠藤氏は私費を投じると共に多くの賛同者の協力・援助により、やっとの思いで「私立豊橋商業学校」を創立することが出来ました。場所は国道一号線瓦町坂の上、不動院の東側、校舎は平屋三棟、運動場はその北方にあり教育環境も良い場所でした。

明治41年2月9日、校主と代表生徒三名が上京し松方正義侯爵より校訓旗「以信為本」を拝受しました。

当時の実業学校制度は中等学校程度にて予科二年本科三年、予科は大体普通中学程度、本科に入ってから三年間専ら商業教育に重点がおかれていました。その内で豊橋商業学校は、松方正義侯爵より拝受した「以信為本」に示された商人としての進むべき道を学んだものです。



私立豊橋商業学校

明治44年6月新校舎が落成、場所は新川町中部電力営業所跡地で教育環境も良いところです。

校主の家は上伝馬町で「校旗」はそこに大切に保管されており学校の諸行事の時、講堂で式が行なわれる際の朝に本科三年の級長三名が決まって校旗を持ちに行き、旗受けの腰バンドに校旗をさして新川の学校まで本町・札木町・大手通りを、朝風に「以信為本」の金文字を翩翩と翻しながら威風堂堂と捧持して行進し、講堂に飾られて

いました。校旗は式が済むとすぐ朝と同じような形で校主の家に戻されました。

この行事は生徒も学校も厳格な行事として執り行うことと考えていました。その校旗は第二次大戦中の豊橋大空襲で遠藤家も校旗も焼失し今は卒業生の記憶だけとなりました。

遠藤氏は大正2年4月に病氣療養のため東京帝大病院に入院しましたが治療の甲斐もなく大正2年12月31日に46歳の夢半ばで逝去されました。

その後商業会議所では大正10年頃より豊橋市における商業教育機関の不足から新設の商業学校を建設する方針を固め、建議書を作って豊橋市長に請願しました。そして遠藤家を校主とする私立商業学校を、市立あるいは県立に移管しようとする動きが広がり会議所議員青山氏と校主家との交渉が進められました。

しかし校主家には遠藤安太郎氏が創立した学校を簡単に手放すことは出来ない思いがありました。最終の交渉での結論は、私立商業学校生徒の一、二年生は市立商業学校に転校し、三、四年生は卒業までの二年間を私立商業学校で過ごすことになりました。

以上の経緯により現在の愛知県立商業高等学校に脈々と歴史が繋がっています。（文責 伊藤有司）